

化学・繊維

1. 評価対象企業（20 社）

帝人、東レ、クラレ、旭化成、レゾナック・ホールディングス、住友化学、日産化学、東ソー、デンカ、信越化学工業、エア・ウォーター、日本酸素ホールディングス、カネカ、三菱瓦斯化学、三井化学、三菱ケミカルグループ、ダイセル、積水化学工業、UBE、日本ペイントホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

2. 評価方法

(1) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	31
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	21
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	30
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	2	13
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(2) 評価実施アナリストは 29 名（所属先 21 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

(1) 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、一部の項目内容および配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 74.6 点（昨年度 71.2 点）、総合評価点の標準偏差は 7.2 点（昨年度 6.7 点）となった。なお、評価対象企業 20 社のうち 18 社において総合評価点が上がった。
- ② 評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 73%（昨年度 71%）、**説明会等**が 74%（昨年度 71%）、**フェア・ディスクロージャー**が 87%（昨年度 83%）、**ESG 関連**が 76%（昨年度 70%）、**自主的信息開示**が 71%（昨年度 70%）となり、5 分野全てにおいて、平均得点率が上がった。
- ③ 評価項目（全 15 項目）について見ると、平均得点率が 80%以上となったのは、次の**説明会等**の中の 1 項目（a）および**フェア・ディスクロージャー**の 2 項目（b）（c）であった。
 - (a) 「四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか」（平均得点率 82%〔昨年度 78%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台 3 社・70%台 3 社・80%台 7 社・90%台 5 社・100% 2 社）
 - (b) 「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」（平均得点率 82%〔昨年度 81%〕）（得点率：60%

台 1 社・70%台 4 社・80%台 12 社・90%台 3 社)

- (c) 「状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか」（平均得点率 94%〔昨年度 86%〕）（得点率：80%台 2 社・90%台 13 社・100%5 社）

④ ESG 関連の 3 項目は、次のとおりとなり、いずれの項目も、昨年度に比べて平均得点率が改善した。

- (a) 「環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか」（平均得点率 78%〔昨年度 73%〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 10 社・80%台 8 社）
- (b) 「社会（S）に関連する情報を、経営戦略と整合する形で、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか」（平均得点率 75%〔昨年度 69%〕）（得点率：60%台 2 社・70%台 13 社・80%台 5 社）
- (c) 「資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていますか」（平均得点率 74%〔昨年度 68%〕）（得点率：60%台 7 社・70%台 9 社・80%台 4 社）

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三井化学（ディスクロージャー優良企業〔5 回連続 9 回目〕、総合評価点 87.3 点〔昨年度比+1.8 点〕）

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等（得点率〈以下省略〉89%）、ESG 関連（86%）が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位（96%）、説明会（87%）、自主的情報開示（83%）が第 2 位となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップの企業価値向上に対する意識は高く、スモールミーティングの開催など IR に積極的に関与しているとの声が寄せられた。また、経営方針、事業戦略、中長期ビジョン、計数目標、ESG への取組みなどが定量情報を含め明確に示されているとの声もあった。「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること。また、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮がなされていること」も同得点第 1 位となった。これに関連して、短中期の業績変動要因、会社の方向性、長期戦略等に関して質の高い議論ができることの声や、IR 部門と経営陣との距離が近く、投資家の要望が届きやすいとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「説明会、インタビューにおける開示」（2 項目計）が第 2 位となった。これらに関連して、決算説明会のほかに経営概況説明会を開催し、短中期の業績動向と中長期の方向性を丁寧に伝えようとする姿勢を評価する声が寄せられた。一方で、取材時の資料の事前送付を望む声があった。「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」および「四半期情報開示」は共に同得点第 3 位となった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「速やかな情報提供」が満点となったほか、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」も同得点第 1 位となった。これらに関連して、決算説明会の音声再生および要旨を日英両言語で遅滞なく公表していること、また、質疑応答にも対応していることを評価する声が寄せられた。
- ⑤ ESG 関連においては、「社会（S）に関連する項目」および「資本政策、株主還元策、ガバナンス（G）に関連する項目」が共に同得点第 1 位となった。また、「環境（E）に関連する項目」も第 2 位となった。これらに関連して、長期経営計画「VISION2030」において、事業活動とサステナビリティへの取組みが不可分であることを明確に示していること、財務目標と同様に非財務目標も定量化し KPI を設定、進捗状況や実績等を統合報告書およびウェブサイトで開示していることを評価する声があった。また、資本政策や財務戦略も明確に示しているとの声があった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が同得点第 1 位となった。「工場見学、ESG 説明会、社外取締役との対話の機会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」も第 3 位となった。これらに関連して、工場見学会や ESG 説明会のほか社外取締役スモールミーティングの開催を評価する声が寄せられた。また、統合報告書の内容を評価する声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 日産化学 (総合評価点 83.5 点〔昨年度比+0.1 点〕、昨年度第2位)

- ① 同社は、説明会等が第1位(91%)、経営陣の IR 姿勢等が第2位(83%)、フェア・ディスクロージャー(90%)、ESG 関連(82%)が同得点第4位、自主的情報開示が同得点第7位(75%)となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」(2項目計)が第1位となった。これらに関連して、IR 部門が事業部門の情報を的確に把握しているとの声のほか、実績、見通し共に十分な数値が開示され、分析がしやすいとの声が寄せられた。「経営陣が企業価値や株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」(同得点第3位)も評価された。これらに関連して、経営陣は CFO を中心に IR に積極的に関与しているとの声があった。なお、経営トップとの一層の対話機会に期待する声もあった。「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」は同得点第8位となった。
- ③ 説明会等においては、4項目全てが最も高い評価(同得点第1位を含む。)となり、この分野において第1位となった。これらに関連して、補足資料を含む説明資料の内容が充実しており、IR 担当者の説明力も高いとの声、取材時の資料の事前送付を評価する声が寄せられた。なお、新製品売上や動物薬原体の状況に関する開示の一層の充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第4位となり、「速やかな情報提供」(同得点第6位)もトップと僅差の得点率であった。これらに関連して、IR 全資料の英文対応を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、「資本政策、株主還元策、ガバナンス(G)に関連する項目」が同得点第1位となった。これに関連して、資本政策が明確で ROE を高水準で維持・向上する姿勢が伝わるとの声があった。「社会(S)に関連する項目」は第7位、「環境(E)に関連する項目」は同得点第7位となった。なお、持続的な成長のための研究開発力強化に関する一層の開示を望む声があった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報(ESG 情報や無形固定資産・知的財産等)を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が同得点第7位となった。これに関連して、知的財産の記載や社長メッセージ、CFO メッセージの内容が充実しているとの声があった。「工場見学、ESG 説明会、社外取締役との対話の機会、事業部説明会、技術説明会等(アナリスト主催を含む)を実施し、かつその内容は充実していること」は同得点第9位となった。充実していたイベントとして、生物科学研究所見学会を挙げる声が多く、また、農薬事業の工場見学会を評価する声もあった。

第3位 旭化成 (総合評価点 82.0 点〔昨年度比+1.7 点〕、昨年度第3位)

- ① 同社は、自主的情報開示が第1位(84%)、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位(96%)、ESG 関連が第3位(84%)、説明会等が第5位(81%)、経営陣の IR 姿勢等が第7位(78%)となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」が同得点第2位となった。これに関連して、経営トップが先頭に立って市場と対話しようとする姿勢があるとの声、ESG の重要性を認識し、サステナビリティ説明会の実施など積極的に情報発信をしているとの声があった。また、データに関する開示は改善しており、継続性にも配慮されているとの声があった。なお、コングロマリット構造を選択していることについて十分な説明を望む声があった。「IR 部門の機能、基本スタンス」の2項目は共に、平均得点率と同程度となった。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会における会社側の説明が十分であること」が第4位となり、「インタビューにおける補足説明が十分であること」は同得点第5位となった。「説明資料等(短信・添付資料および補足資料を含む)における開示」(第5位)および「四半期情報開示」(同得点第6位)も共に 80%以上の得点率であった。これらに関連して、説明会資料や取材時の開示などにさらなる改善が見られるとの声、IR 担当者の説明力が高いとの声があった。なお、海外住宅事業およびヘルスケアのリスク、シナジー、事業戦略等に関する開示の一層の充実を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「速やかな情報提供」が満点となったほか、「フェア・ディスクロ

ージャーへの取組姿勢」も同得点第1位となった。これらに関連して、決算説明会の要旨が質疑応答を含め日英両言語で遅滞なく提供され、英訳の質も高いこと、買収や大型投資などの意思決定の直後にハイブリッドで説明会を開催していることを評価する声があった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、「社会（S）に関連する項目」が同得点第1位となった。また、「環境（E）に関連する項目」および「資本政策、株主還元策、ガバナンス（G）に関連する項目」も共に第4位となり、80%以上の得点率であった。これらに関連して、事業を通じた環境および社会への貢献に加え、事業活動に付随する負荷低減に関しても定量目標を設定していること、環境関連データをはじめとする ESG 関連データの開示に積極的であることを評価する声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」が同得点第1位となった。これに関連して、統合報告書は投資家の関心事に留意した構成となっているとの声があった。「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」も第2位となった。充実していたイベントとして、Caliditas 説明会、セパレータ事業説明会、無形資産説明会が挙げられたほか、社外取締役とのスモールミーティングを評価する声もあった。

(3) 上記以外の企業についての特記事項

○ **三菱ケミカルグループ**（ディスクロージャーの改善が著しい企業、
総合評価点 78.7 点〔昨年度比+10.6 点、一昨年度比+6.7 点〕、第 6 位〔昨年度第 13 位、一昨年度第 7 位〕）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが第3位（92%）、自主的情報開示が第4位（80%）、経営陣の IR 姿勢等（78%）、ESG 関連（79%）が第6位、説明会等が第8位（76%）となった。昨年度に比べ、5分野全てにおいて、得点率が大きく改善し、総合評価点において 10.6 点のアップとなった。
- ② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」（2 項目計）が同得点第3位（昨年度第 13 位）となった。また、「IR 部門の機能、基本スタンス」（2 項目計）も第8位（昨年度第 20 位）となり、昨年度に比べて得点率が大きく改善した。これらに関連して、社長をはじめ新経営陣が IR に積極的に関与しており、経営方針や事業戦略に関する説明も大幅に改善しているとの声が寄せられた。また、今後も、投資家の声を取り入れつつ、さらなる改善を加えてほしいとの声があった。
- ③ **説明会等**においては、「四半期情報開示」および「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」が共に同得点第8位となった。「説明会、インタビューにおける開示」（2 項目計）も同得点第9位となり、いずれの項目も、昨年度に比べて得点率が改善した。これらに関連して、業績変動要因や中期経営計画の計数目標達成に向けた定性的・定量的な情報開示が改善したとの声があったほか、サブセグメントの数値が詳細に開示されるようになったとの声があった。なお、定量情報開示のさらなる充実を望む声があった。
- ④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」および「速やかな情報提供」が共に 90%以上の得点率となった。これらに関連して、電話会議やウェブ会議システムを有効活用していること、日英同時通訳が充実していることを評価する声があった。
- ⑤ **ESG 関連**においては、3 項目全てが昨年度に比べて得点率を大きく改善し、この分野において第6位（昨年度第 8 位）となった。これらに関連して、マテリアリティ達成のための取組みについて、進捗を定量的に評価し公表しているとの声が寄せられた。なお、資本政策は示されているものの、WACC の設定等に課題があるとの声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**の「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）」を実施し、かつその内容は充実していることが最も高い評価となった。充実していたイベントとして、CPC 見学会、九州地区事業所見学会などが挙げられたほか、社外取締役とのスモールミーティングの開催を評価する声があった。

同社は、このようにディスクロージャーの改善が著しいので、「ディスクロージャーの改善が著しい企業」に選定した。

以 上

2025年度 ディスクロージャー評価比較総括表（化学・繊維）

(単位:点)

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のI R姿勢、 I R部門の機能、I R の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. E S Gに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回 順位
			評価項目4 (配点 31点)	順位	評価点	順位	評価項目2 (配点 5点)	順位	評価点	順位	評価項目3 (配点 30点)	順位	
1	4183 三井化学	87.3	27.6	1	18.2	2	4.8	1	25.9	1	10.8	2	1
2	4021 日産化学	83.5	25.6	2	19.2	1	4.5	4	24.5	4	9.7	7	2
3	3407 旭化成	82.0	24.1	7	17.1	5	4.8	1	25.1	3	10.9	1	3
4	4005 住友化学	81.9	24.8	3	17.5	3	4.5	4	24.5	4	10.6	3	4
5	4204 積水化学工業	80.3	23.6	8	16.9	6	4.4	8	25.3	2	10.1	5	5
6	4188 三菱ケミカルグループ	78.7	24.2	6	15.9	8	4.6	3	23.6	6	10.4	4	13
7	4208 UBE	77.9	24.8	3	15.7	10	4.5	4	23.3	7	9.6	10	6
8	3402 東レ	77.4	24.4	5	15.8	9	4.3	11	23.1	8	9.8	6	8
9	4182 三菱瓦斯化学	76.7	22.9	9	16.8	7	4.3	11	23.0	9	9.7	7	7
10	4004 レゾナック・ホールディングス	74.0	22.9	9	15.1	13	4.2	14	22.6	10	9.2	14	9
11	4061 デンカ	73.7	22.0	13	17.3	4	4.2	14	21.2	17	9.0	15	15
12	4042 東ソー	73.4	22.3	11	15.2	12	4.1	18	22.2	12	9.6	10	13
12	4202 ダイセル	73.4	21.9	14	15.6	11	4.1	18	22.4	11	9.4	13	10
14	3405 クレレ	73.3	22.3	11	15.0	14	4.2	14	22.1	13	9.7	7	17
15	3401 帝人	70.4	21.3	15	14.3	16	4.4	8	21.9	14	8.5	16	11
16	4063 信越化学工業	69.3	21.1	16	14.0	17	4.3	11	21.4	16	8.5	16	19
17	4612 日本ペイントホールディングス	69.2	21.0	17	13.6	18	4.5	4	20.6	19	9.5	12	11
18	4088 エア・ウォーター	68.0	19.9	18	14.9	15	4.4	8	21.6	15	7.2	18	16
19	4091 日本酸素ホールディングス	64.2	19.4	19	12.4	19	4.2	14	21.0	18	7.2	18	18
20	4118 カネカ	56.5	16.1	20	11.6	20	3.6	20	19.1	20	6.1	20	21
	評価対象企業評価平均点	74.58	22.62		15.61		4.35		22.72		9.28		

2025年度の具体的評価項目および配点（化学・繊維）

【評価期間：2024年7月～2025年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（31点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値や株価への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	11
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	7
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
①IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	9
②会社にとって都合の悪い情報（不祥事含む）、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	4
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（21点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	7
②インタビューにおける補足説明は十分ですか。	7
(2)説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示	
・説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていますか。	5
(3)四半期情報開示	
・四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	3
(2)速やかな情報提供	
・状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。 【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	2
4. ESGに関連する情報の開示（30点）	配点
①環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期的取組みを適切に開示していますか。	10
②社会（S）に関連する情報を、経営戦略と整合する形で、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。	10
③資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていますか。	10
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（13点）	配点
①工場見学、ESG説明会、社外取締役との対話の機会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか。【過去1年間を目安に評価】 【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	8
②統合報告書、ファクトブック等の内容は充実していますか。また、統合報告書において非財務情報（ESG情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか。 【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	5

化学・繊維専門部会委員

部 会 長	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
部会長代理	山田 幹也	みずほ証券
	岡寄 茂樹	野村證券
	齋藤 達哉	三井住友 DS アセットマネジメント
	澤砥 正美	SBI 証券
	野口 英彦	アセットマネジメント One
	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント

評価実施アナリスト（29 名）

伊藤 健悟	QUICK	西脇 秀敏	三菱 UFJ 信託銀行
今津 拓洋	アセットマネジメント One	野口 英彦	アセットマネジメント One
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	畑澤 巧	三菱 UFJ アセットマネジメント
梅林 秀光	大和証券	番 大輝	野村證券
大野 剛	丸三証券	福田 真望	丸三証券
岡寄 茂樹	野村證券	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	宮本 剛	SMBC 日興証券
河野 孝臣	野村證券	虫明 直槻	東京海上アセットマネジメント
古西 正幸	第一生命保険	百田 史哉	三井住友トラスト・アセットマネジメント
齋藤 達哉	三井住友 DS アセットマネジメント	山田 幹也	みずほ証券
佐藤 三四郎	極東証券経済研究所	吉田 篤	みずほ証券
澤砥 正美	SBI 証券	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント
立田 裕昌	SOMPO アセットマネジメント	渡邊 亮一	モルガン・スタンレー MUFG 証券
坪井 暁	ニッセイアセットマネジメント	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
西平 孝	岡三証券		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。